

2001.04

NO. 2

LETTER

きょうとグリーンファンドが NPO 法人になって4ヶ月、はじめての年度末を迎えています。

3月には、はじめての「おひさま発電所」第1号が、法然院・森のセンターに開設しました。200名を超える方々の思いが形になったのです。今もパネルに名前を書いておられる方々の、なんともうれしそうな笑顔が目に見えます。未来につながる希望が、そこにいる人々を高揚した気分にしたのではないのでしょうか。太陽から作り出された電気で灯りがともった時、思わずそこにいた人々からは拍手が起こりました。この時から20年以上30枚のパネルは太陽から電気を作りつづけてくれるのです。さまざまな感慨がよぎり、「よかった」という思いで心がいっぱいになったのは、わたしだけではないはずです。

寄附を寄せてくださった皆さんの輝くような笑顔が、次の「おひさま発電所」開設へのわたしたちのエネルギーです。続けてきょうとグリーンファンドの活動を支えていただければ、と思います。
(事務局長：大西啓子)



特定非営利活動法人
きょうとグリーンファンド

グリーンファンド活動報告

◎「新世紀を語る 文化や世論こそがシェルター」

池内 了さん(名古屋大学大学院理学研究科教授)の講演を拝聴して

鈴木 範子

「私たちは星の子、まさにスターなんです。私たちは宇宙の必然的な1コマを生きている存在なんです。」星、銀河、宇宙の起源と進化について独創的な理論を展開する国際的な天文学者池内さんは、こんな切り出しでお話を始めてくださった。

地球は「水の惑星」であり、実に微妙なバランスをとりながら、恒環境を実現している。地球は途方もなく、長い長い時間をかけて、生物が生き良くなる様に自らの環境を変化させ、整えてきた。しかし、サルと同じ祖先から500万年以上かかって、人へと進化してきた私達人間は、自らの手で恒環境にしようと試みた結果、わずかこの30年ほどの間で、循環系として様々な悪循環を生み出し、進行させてしまった(例えば、CO2排出による地球の温暖化等・・・)。

今私達は、進化の果ての絶滅を避けるため、集中化・巨大化・均一化した脆い社会システムを、知恵のあふれる複眼で見つめなおす必要がある。そのためには、大量消費や使い捨てをやめ、その生活スタイルを変えることが大切であり、それが長いスパンで物事を見つめる宇宙のスケールへと繋がって行く事である。

科学者・技術者・市民との連携を強め、『力ではなく知恵で、武器ではなく文化で』そうした価値観が当たり前のことになる文化や世論をつくり出すこと、それこそが21世紀を生きようとする私達、一人一人の大切な役割なのだ。なぜならば「そうした文化や世論こそがシェルターになるのだから。」このように池内さんは力説されて講演をまとめられた。

理論や思想を軸に、ご本人の暮らしの実践に裏打ちされたお話は、大量消費で汚染された社会に決別し、省エネと再生可能な自然エネルギーによる21世紀を目指す『きょうとグリーンファンド』の設立に加わった、一人一人への問いかけにもなったと思う。私も、知恵のあふれる複眼で物事を見つめられるよう努めて暮らしたい。

当日は、池内さんの著書『私のエネルギー論』(文春新書)を販売した。時々、空を見上げながらの一読をおすすめする。そしてともに文化や世論を作り出す仲間になれば・・・と思う。

最後にとてもお忙しいなか講演をお引き受けくださった池内さん、本当にありがとうございました。心からお礼申し上げます。



☆池内 了さん著書・・・『天文学者の虫眼鏡』(文春文庫)『我が家の新築奮闘記』(晶文社)『科学の考え方・学び方』(岩波ジュニア新書)ほか。

◎「子供たちの豊かな未来のために」 おひさま市民発電所 第1号完成

阿部 あり

2001年3月3日、法然院森のセンター「共生き堂」の屋根に、法然院、森のセンター/フィールドソサイエティー、そしてわたしたちグリーンファンドによる市民共同発電所『おひさま発電所』第1号が完成し、点灯式が11時より森のセンター前において約60人の参加で始まりました。

最初に梶田さん(法然院貫主)より「他人事も自分事としてこのような意義ある事業の第一歩に関わったことを大変うれしく思います。」というお話、能村さん(きょうとGF理事)の経過報告、龍池さん(きょうとGF理事長)の挨拶、つづいて、発電パネルの裏面にだん王児童館の子供たちをはじめ参加者は各自名前と思い思いのイラストを書き込みました。自分の名前を書いたパネルと一緒に記念撮影では、誰もがそれぞれに満足そううれい顔でした。なお当日参加できなかった方を含んで170人の名前と共に、30枚のパネルは屋根の上に設置されました。

午後からは板倉さん(きょうとGF理事)を講師として、法然院の森の中を散策しながらの自然観察会、続いて森のセンター学習室にて林さん(きょうとGF理事)より『太陽光発電の基礎』について講義を受けました。

パネル設置工事も午後3時前に完了。いよいよクライマックスの点灯です。スイッチON!子供たちの持った200wの裸電球が、パッと灯った時は、思わず大きな歓声が上がり拍手の嵐。

その後、山田さん(きょうとGF理事)から『おひさま発電所』の看板として栗の板が、森のセンターを拠点に活

◎誰にでもわかる太陽光発電 「太陽電池のしくみ」

ワーカーズコープ エコテック

林 敏秋

太陽電池は外観上一枚の板にしか見えません。しかし、ここに太陽光が当たると電気を生み出すことができるのです。乾電池のように内部に電気を貯めることはできません。太陽電池というよりは「太陽発電機」という方が正確かもしれません。

では、太陽電池の発電原理を簡単に説明しましょう。太陽電池は、半導体と呼ばれる物質でできており、原材料はシリコンです。シリコンは地球上で二番目に豊富な元素です。電気を通す物質は「導体」、電気をまったく通さない物質は「絶縁体」、電気を少しだけ通すのが「半導体」です。半導体は、トランジスタやICなどのエレクトロニクス部品に広範囲に使われています。

太陽電池の発電には半導体の光電効果が利用されています。光電効果とは半導体に光が当たると、光のエネルギーによって電子が束縛状態から解放され、動き回るようになる現象です。実際の太陽電池は、電気的に性質の異なる二種類の半導体が張り合わされています。一つはN（ネガティブ）型半導体、もう一つはP（ポジティブ）型半導体です。この二つの半導体を接合したものが、P-N接合部に光が当たると半導体の中にプラスとマイナスの電荷が発生し、それらを外に取り出すことによって電気を流すというものです。したがって、光があたる限り、休まず発電し続けるのです。

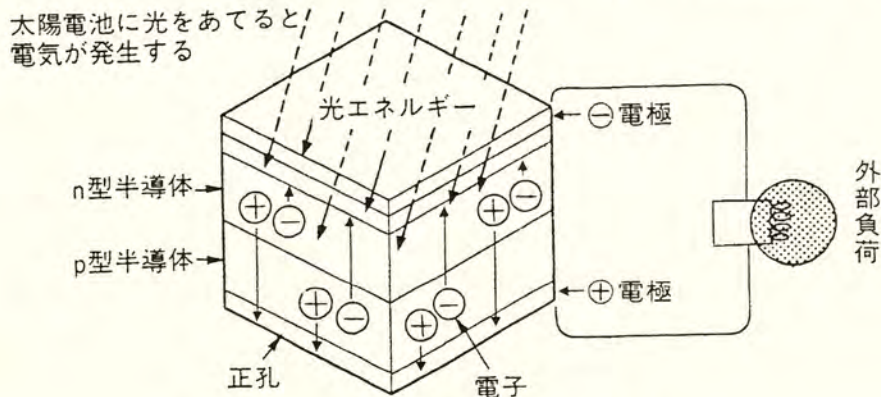


図 . 太陽電池でどうして発電するのか

動するフィールドソサイエティー代表久山さんに、贈呈されました。この栗の板は太陽エネルギーの“かんづめ”であると、能村さんから説明があり、久山さんからは、「自分たちが責任を持って守り、皆に伝え広げていきます。」と力強いご挨拶をいただきました。

3月3日は寒く曇りがちな日でしたが、やさしい太陽の光は遥かかなたから確実にこの小さな森の中にも届き、パネルは太陽のエネルギーをしっかりと受け止めていました。こうした太陽光発電が今後もどんどん広がりますように。当日参加していただいた皆さんの声です。

- ◎ランプがついた瞬間はとってもうれしかった。自分の家にも太陽電池をつけてゲームをたくさんしたい。
(左京区 だん王児童館 T・Mくん)
- ◎図書館や幼稚園・保育園など公共の施設にどんどん太陽光発電をつけてほしい。
(下京区 H・Aさん)
- ◎人間も植物動物とともに太陽の光を受けて共に生きていることを実感した。子供たちのために太陽光発電設備などの自然エネルギーがもっと普及して自然環境が破壊されることのないようになってほしい。
(左京区 O・Kさん)



◎きょうとグリーンファンド・セミナー（京のアジェンダ 21 フォーラム パイロット事業）
「省エネでお金儲けができる!? ESCO 事業が進める事業所の省エネに学ぶ」

3月16日（金） 13:30～16:00：京のアジェンダ 21 フォーラム 会議室にて

講師：宮本 康弘さん（オムロン・ファシリテイクリエイツ株式会社・企画推進部部長）

ESCOとは Energy service company（エネルギーサービスカンパニー）の頭文字をとった言葉です。既存の建物や工場、公共施設を対象に、①省エネ診断、②エネルギー管理、③設備改善、④高効率機器への更新など省エネに関する包括的なサービスを、所有者に代わって実施し、達成した節約分を所有者と分け合う事業です。施設所有者にとっては、初期投資やリスクなしでも省エネが実現できるしくみというわけです。

今回は、ESCO 事業から効果的な省エネの極意を学ぼうということで、この業界の先駆けとして事業を立ち上げられた宮本さんにお話をいただきました。

当日は ESCO 事業に強い関心を持った方々が参加され、突っ込んだ質問も出ました。このセミナーを皮切りに、事業者を巻き込んだグリーンファンドのシステムを研究する集まりを立ち上げようという話もあります。次につながる事ができればと思います。

☆若い参加者（京都大学環境地球工学 都市環境安全工学講座の学生さん）の感想は・・・

◎今回 ESCO 事業に直接携わっている方のお話をじかに聞く機会を得て、持続可能な環境への取り組みが真に芽生え始めている事を強く感じました。実際の現場でも単に省コストだけに傾いていくのではなく、環境を意識した取り組みを行っていることを聞き、環境を改善する行為が経済の枠組みにうまく取り入れられていると感じ、大変面白いと思いました。このような持続できる環境への取り組みがますます伸張して欲しいと思いました。

（I・Y さん）

◎今回のお話を伺って、今まで無駄にしていた部分を省くことにより、依頼者と企業双方に利益をもたらすというその発想に驚かされました。また、実際に環境改善を行って利益を生み出している方の生の話を伺うことができ、大変興味深かったです。僕は大学で自然換気を勉強しているのですが、自然換気が実際の現場でも省エネルギーのためのツールとして使用されている話を聞いて、大変面白く感じました。

（K・T さん）

◎最近、省エネ効果を謳った空調機が多々登場していますが、時間的、コスト的、技術的な問題があり、建物の引渡し時に、制御システムの調整が不十分で必ずしもその効果が発揮されているとは限らないのが現状です。私は効率よく制御の不具合を発見し改善する手法を構築する研究をしていますが、これは空調制御システムの性能を検証し保証する手法でもあり、省エネ効果が見込めるものを提供し、提供者と使用者のみならず環境にもメリットのある ESCO 事業に役立つ、と感じました。

（M・I さん）



「省エネラベリング制度」をご存じですか？

☆2000年8月21日付けで「省エネラベリング制度」に関する JIS 規格が公示されました。この制度は、家電製品が国の省エネルギー基準を達成しているかどうかをラベルに表示するもので、製品を選ぶ際の性能の比較などに役立ちます。



<省エネ性マーク>

省エネ基準達成率が 100%以上の製品には緑色のマークを表示することができます。次の 5 つの家電製品が対象です。

*対象機器・・・エアコン・蛍光灯器具・テレビ・電気冷蔵庫・電気冷凍庫

◎理事から一言

『グリーンファンド 21世紀への夢』

山田喜美子

熱心に反原発の運動をやっていた時期もあったのですが、心身共に疲れてしまい、なんだか全てが徒労に思えて動くのをやめてしまいました。「価値観が変わらないといけないんだ」との思いで、体験学習の場作りに10年を費やしました。

その間、公共建築等で自然エネルギーの提案もしていたのですが、ほとんど採用されず。仕事関係では、環境問題やエネルギー、まして原発の話などほとんど通じなくて、積極的に話して行くだけのパワーもなく。ただ、ケチケチと節電の努力を続けていたのですが、扇風機もない京都の家の2階で、汗だくになって、毎年発表される「今年も電気の使用量が最高になった。」との報道を腹立たしく、又情け無く聞いていました。

でも、ここに来て、ずいぶん風向きが変わって来ました。環境問題や省エネ、シックハウスを考えないで設計をやっては行けなくなってきました。それだけ、どうしようもないほど破壊が進んだという事なのでしょうが……。

逃げ出してしまった、反原発の活動も昨年よりグリーンファンドに関わって、ただ反対を叫ぶのではなく、「だったら今何が出来るのか」と言う視点で、それも1人でボソボソやるのではなく、広がりや希望のある、このような形で参加出来て少しホッとしています。私

個人としては、これ以上の節電と言うのはかなり難しい状態です。1ヶ月1200円(60kwh)を切る事は出来ないと考えていたのが、どうゆう訳か1070円(55kwh)になって俄然頑張って節電しました。昨年の山田国広さんの講義で、「蛍光灯でもこまめに消した方が節電になる。」とお話だったので、消しまくったら1400円(74kwh)と上がってしまいました。別の要素もあったのかもしれませんが、すでに消す習慣が出来ている人にとっては、蛍光灯は次つけるまでの時間を考えて消灯しなければならないようです。今は長い時間つけておく場合は蛍光灯。短い時間、たとえば食事をする間だけなどは白熱電球のスタンドでムードもあって楽しく食事をしています。

ただ今一つ解せないのですね、この10kwhは何が影響しているのかが分からない。月500円の節電は、しつこくしているのが無理なのですが、もう少し注意しながらやってみようと思っています。私が今やるべきは、他の人に対して節電をうまく広める事だとは思いますが、なかなか難しいですね!

個人として話をするのは難しくても、グリーンファンドとしてパンフやグリファンレターを使ってなら私でも出来るかなと思っています。どうぞよろしくお願いします。



節電ひとくちメモ

豆知識……家庭でいちばん電気を消費するものは、なに??

電力をたくさん消費する電気製品を知ることが、家庭での、効率の良い省エネルギー対策につながります。

わたしたちの家庭では、電気の約66%は、エアコン、冷蔵庫、照明器具、テレビの4つに使われています。消費電力量の多い機器にきちんと対応することが、省エネの効果をも高めるポイントになります。買いかえるときには、エネルギー効率の良い機器を選ぶこと。そして、冷暖房の適正温度を守ったり、冷蔵庫のドアの開け閉めの回数を減らしたり、少しずつ無駄を省くだけで、毎月の電気代も変わってきます。

(一般家庭 1カ月の平均的な消費電力量は、地域、季節により差がありますが※約295kWh程度です。) ※平成11年度電気事業便覧より

ぐりふあん日誌

- 2000/12/08 事務局会議
12/18 第12回運営委員会
12/22 「むささびソーラープロジェクト」
記者会見 (法然院森のセンター)
- 2001/1/09 事務局会議
1/10 第13回運営委員会
2/06 第1回理事会
2/13 「きょうとグリーンファンド」
ホームページ開設
3/03 「おひさま発電所」設置 点灯式
(法然院森のセンター)
3/06 事務局会議
3/16 「ESCO 事業」勉強会
3/19 第2回理事会
4/06 事務局会議
4/16 第3回理事会

『きょうとグリーンファンド』
の **ホームページ** が
で・き・ま・し・た・!!!!

URL は、
<http://www.h3.dion.ne.jp/~kyoto-gf>
です。

ぜひ、見てください。
ご意見お待ちしております。

これからの予定

2001 年度総会

- 日時：5月26日(土) 14:00~16:00
場所：こどもみらい館
中京区間之町通竹屋町下る楠町 601 番地の1
TEL：(075)254-5001
- 内容：2000 年度事業報告
2000 年度収支決算報告
2001 年度事業計画案
2001 年予算案
その他

左記のように2001年の総会を予定しています。NPO 法人となって始めての実質的な総会となります。会員の皆さんの思いが反映される、開かれたきょうとグリーンファンドであるために、さまざまなご意見・ご提案をお待ちしています。

特定非営利活動法人 きょうとグリーンファンド事務局

〒604-0932 京都市中京区寺町二条下ル妙満寺前町 446
ワカバヤシビル 3F 京都プロボノセンター
TEL/FAX：075-241-0550 (月~金 11:00~16:00)
E-mail：grifan@h7.dion.ne.jp
：kyoto-GF@npo-net.or.jp
ホームページ URL：http://www.h3.dion.ne.jp/~kyoto-gf

